

ティルト・リクライニングタイプの調整と車椅子の使い方



ティルト・リクライニングタイプ車椅子の調整

寝たきりの人向けの車椅子。
座れるようにするために時間をかけて徐々に角度を上げ(心臓を上げる)心臓に負荷をかける。そのため角度計が装備されている。
肩と膝が同じ高さのとき体はほぼ水平となる。



角度計

ティルト機能では、座面とバックレストが弓状のガイドに沿って移動し、体の重心が車椅子の芯を外れないように工夫されている。

リクライニング傾斜角調整用のレバー



フットブレーキ

ティルト傾斜角調整用のレバー



リクライニング機能では、バックレストを傾斜させると肩甲骨が引き上がり胸を圧迫するので苦しい。介助者が手の甲を上にして肩口から腕をたすきに挿入し肩甲骨を浮かせると楽になる。バックレストを戻すときも逆にずれるので同じように体を浮かせると楽になる。

ヘッドレスト、ネックレストの調整高さ、出、広がり角度等、その人に合わせいろいろ調整できる。ヘッドレストは後頭部に合わせ、ネックレストは耳と肩に当たらないことを基本とする。ネックレストは変形した体の矯正にも使う。

スロープ勾配 1/6



段差 10cm, スロープ勾配 1/8



スロープ・段差での車椅子の使い方を学習

スロープでは後ろにひっくり返らないように、特に勾配 1/6 では気をつける。自走で勾配 1/8 はスムーズに上れるが、1/6 は力が入る。

砂利道では、介助用はキャスターを上げて走行すると振動が伝わりにくい。また、グレーチングではキャスターが溝に入りやすいので斜め走行かキャスターを上げて走行するとよい。

段差ではティッピングレバーを使いキャスターを上段に載せ、駆動輪をなぞらせるようにして転がす(車輪を浮かせない)。大きな段差では腰を入れて踵で押す(つま先では力が入らない)。

